

2025 年 03 月 18 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【日銀金融政策決定会合と F O M C】

今日明日（2025 年 3 月 18 日、19 日）に、日銀金融政策決定会合が開催される。

全く同じスケジュールで、F O M C（連邦公開市場委員会）が開催される。

それぞれの会合で、日米それぞれの金融政策が決定される。

全く同じスケジュールではあるが、日米の時差があるので、その発表にも先と後がある。

2025 年 3 月 19 日の東京時間の昼頃に日銀の金融政策が先に発表される。

米国（F O M C）の金融政策は、2025 年 3 月 19 日のニューヨーク時間に発表される。

米国（F O M C）の金融政策の発表を、東京時間で表すならば、2025 年 3 月 20 日の東京時間午前 3：00 になる。

+++++

今回（2025 年 3 月 18 日、19 日）の日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が大方の予想とされている。

市場参加者の多くは、以下のように考えている。

2%を上回る物価上昇率、そして、好調な賃上げが発表されているが、トランプ政権による関税などの影響が、世界経済や日本経済に与えるリスクを考慮して、この会合では、政策金利据え置きという判断をするであろう。

多くのエコノミストは、今後の日銀の利上げのタイミングは 7 月と見込んでいる様子だ。

日銀は今後も利上げを実施するものの、半年に 1 回程度のペースで利上げする、と想定している。

このところのマーケット（金融市場）では、長期金利の上昇（国債価格の下落）が目立つのだが、今回（2025 年 3 月 18 日、19 日）の日銀金融政策決定会合で、その点に関するコメントの有る無しにも注目したい。

+++++

今回（2025 年 3 月 18 日、19 日）の FOMC（連邦公開市場委員会）では、日銀と同様に、政策金利据え置きが大方の予想となっている。

パウエル F R B 議長は、

「トランプ政権の決定事項を批判ないし評価するのは職務ではない」

と述べているが、トランプ政権の決定事項が、米国経済に与える影響に対応しなければならない。

トランプ政権の関税措置などで、今後の米国が景気後退に陥るリスクは高まっている、といった認識は広まっており、F R B が利下げで米国経済と雇用をサポートする可能性もあり得る。

ただし、先に述べた通りに、大方の予想は政策金利据え置きではあるが。

利下げを行わずに、政策金利を維持することは、米国の物価上昇を抑制する効果が期待される。

引き続き、高いインフレ率を抑制するために、政策金利の据え置きを予想する声が多いのだろう、と考えています。

++++
++++

（2025 年 03 月 18 日東京時間 13：25 記述）